

# 講演要旨

## ① 「山形県内における防災気象情報等発表下における住民行動とその振り返り」

講師：

**熊谷 誠（くまがい まこと）氏**

（国立大学法人 山形大学 地域教育文化学部 講師）



1月1日能登半島地震、7月25日の大雨において山形県内でも津波警報や大雨特別警報が発表され、それぞれ住民の避難行動や身を守る安全確保が生じていた。

報告では、山形県鶴岡市沿岸における当時の津波避難に関するアンケート調査、酒田市における水害発生時の住民行動に関するヒアリング結果をもとに、当時の状況と住民の避難判断、行動についての検証を紹介する。

## ② 「令和6年7月25日に山形県で発生した集中豪雨の特徴」



講師：

**栃本 英伍（とちもと えいご）氏**

（気象庁 気象研究所 台風・災害気象研究部 第二研究室 研究官）

近年、集中豪雨が毎年のように発生し、甚大な被害が引き起こされています。集中豪雨は、その約半数が線状降水帯により引き起こされていることがわかっていますが、線状降水帯の実態や発生機構については未解明な部分が多く、その的確な予測も難しい状況です。

本講演では、令和6年7月25日に山形県で発生した線状降水帯に伴う集中豪雨事例の特徴について、紹介します。また、過去に山形県で発生した線状降水帯事例と比較し、令和6年の事例と共通する点や、異なる点について解説します。